

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立木造高等学校
-----	------------

発表方法 オンライン

発表テーマ

つがるメロンのおいしさをお届け
—地域ブランドを材料に商品開発しつがる市を発信—

発表要旨

つがる市には昔も今も、美しい農村風景と共に、農家の人たちが大切に育ててきた地域ブランドがあります。私は商品開発プロジェクトに参加して、つがる市の特産物「つがるメロン」をPRするためにメロンゼリーの開発を行いました。本日はSDGs8「働きがいも経済成長も」の達成を目標に商品開発を行った、探究学習の取組の一部をご紹介します。

発表内容：

- 1 開発動機
 - (1) 参考例 クインシーメロン
 - (2) 高級感
 - (3) 目標
- 2 試作
 - (1) メロンゼリー
 - (2) 協力者
 - (3) スケジュール
- 3 振り返り
 - (1) 試作品、反省
 - (2) 全体を通して、反省
 - (3) 今後について

つがる市マスコットキャラクター
「つがるちゃん」



「あおり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立六ヶ所 高等学校
-----	--------------

発表方法 オンライン

発表テーマ

ROHS(ロハス) [ROkkasho High School & ROKkasho Our Heritage Studies] ～私たちの六ヶ所を受け継ごうプロジェクト～

発表要旨

六ヶ所村は豊かな自然のもとで行われる畜産業、農業、漁業や観光業、また、エネルギー産業である太陽光、風力、水素等のクリーンエネルギー施設や原子燃料サイクルが立地し、それらが共生する地域である。このような特色ある産業構造を持つ六ヶ所村について、それぞれの産業を探究し、さらに、歴史や文化、自治体としての町づくりを校外学習で学んだ。そこで学んだ地域の発展と活性化のための課題とその解決に取り組んだ実績を発表する。

発表内容：

- 1 六ヶ所村の概要
- 2 9つの探究分野について
エネルギー／農林水産業／観光／特産品／祭り／定住／伝統芸能／歴史／安全
- 3 各探究分野における課題
- 4 校外学習を通じて
- 5 解決策の提案
- 6 まとめ

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立柏木農業高等学校
-----	--------------

発表方法 オンライン

発表テーマ

地域農業振興と郷土愛の醸成をめざして
～農産物の生産・流通・販売に関する取り組み～

発表要旨

本校がある中南地域は農業が盛んであり、農業高校で学ぶ私たちはもっと地域農業や関連する産業についての理解を深めることが必要であると考えた。そこで、普段の授業で農業について実践的に学びながら、地域の農家や企業、団体などを訪問し、農業や関連産業について学習し、課題解決に向けて取り組んだ。

発表内容：

①カボチャの産地化に向けた取り組み

先輩方が弘果弘前中央青果株式会社様と連携して、カボチャ栽培に取り組んでいたため、その活動を引き継いで取り組むことにした。国産カボチャは九州地方から北海道へ、時期によって産地が移り変わり、一大産地がない東北地方、青森県にはチャンスがある。カボチャだけでなく、農産物の安定供給のためには産地形成が必要であり、地域内の連携が重要である。今年度は、先輩方が課題として挙げていた、ネズミ対策に取り組んだ。昨年度は、ネズミによる果皮への食害が多く、ほとんどのカボチャが被害を受けており、弘果様も有効な対策がなく農家も困っているとのことであった。様々な方法を検討し、市販の忌避剤の散布とペットボトルで風車の作成・設置し、栽培試験を行った。結果は、どちらも果皮への食害がなく、効果が見られた。また、収穫後のカボチャは弘果様へ出荷後、いづく様で販売していただくことになり、学校から近い平賀店様で店頭販売を行った。多くのお客様に購入していただくことができ、予定していた数量のほとんどを売り切ることができた。さらに、協力いただいた弘果様をはじめ、地域の様々な企業や農家の視察を行い、地域企業や農業の現状についての理解を深めることができた。今後も、地域と連携しながら学びを深めるとともに、自分自身の進路についても考えていきたい。

②リンゴの高密度植栽培の普及に向けた取り組み

リンゴの生産量は減少傾向にあるが、その理由の1つに農業従事者の高齢化・担い手不足がある。背景として、高所作業の危険性や生産効率の低下、収入の安定に数年要するな

どが挙げられる。そこで近年注目されているのがリンゴの高密度植栽培であり、外部との連携を進めている。高密度植栽培の学習のため、大規模で高密度植栽培を展開している(株)ジャパンアップル、データを利用した効率的な高密度植栽培を実践している(株)RED APPLE の園地に視察に伺った。実際の園地を見て、栽培について農家に直接話を聞くことで導入に向けて具体的な栽培方法の理解を深めた。本校OBである福土農園でも高密度植栽培を行っており、高品質・省力多収生産のメリットを直に知ることができた。フェザー苗木育成についてアイデアを提案した「大地のカコンペ2022」ではグランプリを受賞し、平川市長に表敬訪問し、高密度植栽培の普及に寄与することができたと考える。提案内容の第一歩として(株)原田種苗に伺い、高密度植栽培に利用されているフェザー苗木の台木の取り木繁殖作業も経験した。県内において、フェザー苗木が不足している現状もあるため、来年展開していくフェザー苗木の育成に向けて貴重な作業体験をすることができた。果樹は単年度で結果を出すことができないため、今回経験したことを後輩たちにつなげていく。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立三本木高等学校
-----	-------------

発表方法 オンライン

発表テーマ

「あおもり創造学」三本木高校×地域研究×SDGs
三沢市の移住支援制度と効果的な普及方法について

発表要旨

三沢市では人口減少と少子高齢化が問題となっているが、現在どのような対策がとられているのだろうか。移住支援制度に着目し、市の知名度を上げる方法を考えることにより、移住先として選ばれるようになることで、市の活性化が図れるのではないかと考えた。

発表内容：

三沢市の人口減少を食い止め、子育て世代を中心とした移住を促進することで人口を増やし、市を活性化するためにはどうしたらよいか。静岡市など他県の人気移住先と移住支援制度などを比較した場合、市の政策に大きな違いはないのに、移住先として選ばれる市と人気がないところがある。移住先として選ばれるために、三沢市に何が必要か考えた結果、知名度が重要なのではないかと考えた。

知名度を上げるための方法としてふるさと納税とPR動画の2つを考える。ふるさと納税については、現行の実施状況を調べ、他県成功例と比較し、より人気を得る内容を考えた。PR動画については、三沢をより魅力的に配信する内容と手段を考えた。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	弘前実業高等学校
-----	----------

発表方法 オンライン

発表テーマ

生命と価値の探求
～地域に根ざした農業クラブ活動～

発表要旨

農業経営科は、前身である農業科から地域に根ざした農業教育活動として、これまで62年の歴史と伝統を継承しながら取り組んできました。最近では、課題研究での活動を深化させ、りんご新品種の普及活動や在来作物の保全に関する地域に密着した活動が評価され、日本農業クラブ連盟大会意見発表の部最優秀賞受賞や青森県学校農業クラブ連盟大会プロジェクト発表2年連続最優秀賞受賞などその地道な活動が評価されている。本発表では地域の素材であるりんごや在来種を題材に地域に根ざした農業クラブ活動について紹介している。

発表内容：

1. 農業科設立と農業経営科閉科までの62年間の軌跡
2. 地元企業と連携したりんご新品種「初恋」の普及に関する研究
 - (1) 研究の動機と背景
 - (2) 研究内容と研究成果
3. 津軽地域における在来作物の保全に関する研究
 - (1) 研究の動機と背景
 - (2) 研究内容と研究成果
4. まとめ

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	五所川原農林高等学校
-----	------------

発表方法 オンライン

発表テーマ

地域課題解決への挑戦～農業から考える地域課題～

発表要旨

最新の農業技術を取り入れることで、地域のモデルとしての情報提供や外部団体の園地見学受け入れ先となれるように活動したい。また最新技術を身に付け、将来の新規就農や後継者不足解消になるような活動に学校全体で取り組むための第一歩である。

発表内容：

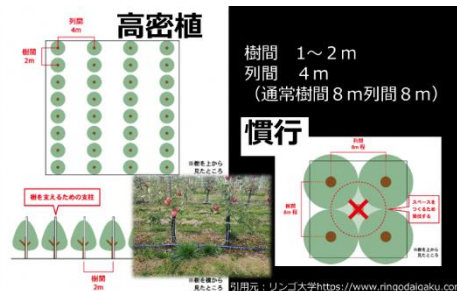
農業家数の減少が止まらないという課題の解決に向けた取り組みで、リンゴ高密度植栽培に着目し活動を行うことにした。

高密度植栽培は作業の安全性や管理のしやすさ、定植から2年という早い段階での収穫が可能であること等メリットが多く、実際に実践している農家を訪問し、収穫作業を行うことでメリットを体感できた。

高密度植栽培に取り組む栽培方法を普及できれば後継者不足もしくは新規就農者の増加が見込めると考える。

今年度の成果として連携先ができたこと、ゴールが見えたことが大きかったと感じている。

自ら考え行動に起こし地域の課題に今後も取り組んでいきたい。



「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	五所川原工科 高等学校
-----	-------------

発表方法 オンライン

発表テーマ

「地域のSDGs」 ～持続可能な地域を目指して～
— 地域貢献への第一歩 —

発表要旨

1 学年では、まず地域の様々な業界の方々が取り組んでいる課題についての話を聴くことで知識や考え方を獲得し、それをもとにグループで課題を設定し調査、考察した。さらに、地域課題の解決策に関してディベートを行うことで各自の考えを深化させた。
2 学年では、普通科の生徒がグループで地域課題の解決に向けて取り組んだ。
今回は、普通科・工業科全体で取り組んでいる1 学年の活動を中心に発表する。

発表内容：

本校のある西北五地域は人口減少が進み、20年後には現在の約半数になると予想されている。この活動を通して、将来多くの問題を抱えることになるであろう地域を支え、持続可能な地域社会を作り上げていく人財の育成を目指した。

1. 1 学年（普通科・工業科）

(1) 地域の様々な業界の方々による講義

SDGsに関する講義、五所川原市長、五所川原商工会会頭、富士電機社長、弘前大学教授の講義を聴き、SDGsに関する知識を得、各業界での取組事例や探究の仕方を学んだ。各講義の後にはグループ協議を行い、意見を発表し合うことで、より理解を深めた。

SDGsについてはもちろん、地域の現状（抱える問題）や解決に向けた取組のこともよく知らない生徒が多く、地域に目を向ける良い機会となった。

(2) グループ探究

SDGsの17の目標の中からテーマを設定して、グループで情報を収集し、課題解決策を考案した。

「工業排水処理の課題について」をテーマにしたグループの例を挙げる。このグル

ープは養殖サーモンを生き締めした際に出た大量の血液を漁港内に不法投棄した青森県深浦町の事例から、青森県の工業排水の課題とその解決策について自分たちなりにまとめた。

(3) ディベート

(1) (2) の活動を通して、SDGs の取組や地域が抱える問題に関する理解、考えを深め、それをもとにディベートを行った。ディベートのテーマは、(2) で各グループが取り上げたテーマに関連するものとして、初めからある程度の知識や考えがある状態から始めたが、「賛成」「反対」両方の立場で考えることで、より本質に迫ることができた。

2. 2 学年 (普通科)

(1) グループ探究

16 のグループに分かれ、各グループで地域が抱える問題を見つけ、課題を設定し、フィールドワーク等を通して調査、考察した。

活動例として「地方でのキャッシュレス普及」をテーマにしたグループを挙げる。このグループは青森県のキャッシュレスの利用率が全国的に低いことに着目し、実際に地域の店舗に出向いて現状を調査し、原因を探った。キャッシュレスのメリットとデメリットを比較し、メリットの方が大きいと判断して、啓発ポスターを制作するなどした。この活動を通して、利便性の高いキャッシュレスの普及率を上げることで、地域の活性化を図った。

校内で行った発表会に外部の方を呼ぶことはできなかったが、全てのグループが何かしらのコンテストに出品することで外部からの評価を得ている。

本校の工業科は、「総合的な探究の時間」を3年次の「課題研究」で代替しているが、1年次では普通科の生徒と一緒に「総合的な探究の時間」を履修している。普通科の生徒は2年次の「総合的な探究の時間 (2 単位)」で、工業科の生徒は3年次の「課題研究 (3 単位)」で、同じことを学んだ異なる科の生徒達が、各学科の知識、技術を土台に、これまでの学びをどのように昇華してくれるのか、また、将来どのように地域に貢献してくれるのか、楽しみである。

「あおり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立八戸北高等学校
-----	-------------

発表方法 オンライン

発表テーマ

地域課題研究のための調査 ～三沢市の外国人への対応について～

発表要旨

青森県の人口は現在減少傾向にあり、私が住む三沢市の人口も減少している。人口減少は、働き手の減少など、様々な問題を引き起こすため、地域課題として重要視する必要がある。私は、三沢市の外国人移民の増加による問題の解決を目的に、外国人への三沢市の対応について調査し、三沢市に課せられた課題について発表する予定である。
--

発表内容：

本県においては、2015年に131万いた人口も、30年後の2045年には約80万人になると推定されており、当三八地域や各産業分野においても、人手不足になることは喫緊の課題となることは否めない。また、近年では地元スーパー「みなとや」の撤退や、本年4月に中心街における三春屋の撤退や空き店舗の増加、大須賀海岸におけるオオハンゴウソウ（外来種植物）の繁殖、新型コロナウイルス感染症の影響による2年連続中止となった八戸三社大祭やえんぶりの後継者への伝承など、地域に関する課題も山積している。これらのことを踏まえ、人口減少を見据えた地域課題を発見し、それに向けた解決策を考えることで、改めて地域の魅力を発見するために、地域課題解決のための一人一研究課題を設定する。今年度はそのための課題に関する情報収集をして、整理・分析する。そして、新聞を作成した後生徒同士で協議し、発表するものである。なお、今回の発表では2月末での完成に向けての、途中経過の発表となる。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立三戸高等学校
-----	------------

発表方法 オンライン

発表テーマ

「三戸みらい創生プロジェクト」～1年目の活動報告～

発表要旨

三戸高校では、地域の抱える課題を主体的に見つけ出し、その解決方法を探究しつつ地域社会と連携した取り組みをすることにより、郷土愛を深め地域の発展のために貢献する意欲を育むことを目的として活動した。

1年目の主な活動として1年生は「地域探究フィールドワーク」、2年生は「SDGsアイデアコンテスト」を実施した。本発表会では活動内容とアンケート結果集計について報告する。

発表内容：

三戸高校は、昨年度までの2年間青森県教育委員会主催の「高校から取り組む人口減少対策プロジェクト」を実施した。今年度からの「あおもり創造学」においては、昨年度までの活動プログラムをベースとして「あおもり創造学」事業に取り組んでいる。1年目の今年度は以下の活動を実施した。

① 「地域探究フィールドワーク」（1年生対象）

地域における優良企業である八戸セメント株式会社とエプソンアトミックス株式会社、地域活性化に取り組んでいる高等教育機関である青森公立大学を訪問することで、地域の魅力を再発見することを目的として実施した。

② 「SDGs アイデアコンテスト」（2年生対象）

持続可能な地域社会を創生するために、SDGsの視点から生徒自身が地域活性化や持続可能なまちづくりのための具体的アイデアをプランニングし、専門家や地域の関係者に対してプレゼンテーションすることで、地域社会の課題と課題解決の方法について理解を深めることを目的として実施した。

上記いずれの活動においても、生徒のアンケート結果および専門家による外部評価は良好であり、将来の職業選択や進学に向けての意欲を高めた生徒が多かった。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立青森西高等学校
-----	-------------

発表方法 参集型

発表テーマ

「青森セレクトプロジェクト～観光資源研究と成果の還元～」
—青西おもてなし隊の駅からハイキング—

発表要旨

青西おもてなし隊の活動を「あおもり創造学」と結びつけ、青森の観光資源発掘の一環として本校周辺の観光スポットについて学習した成果を「駅からハイキング」というおもてなし活動に生かし、郷土の魅力を発信した。自分たちも地域の歴史的価値に対する認識を新たにし、観光ガイドの実践を通して、郷土の魅力を伝え青森を選択（セレクト）してもらう方法について考察した。

発表内容：「駅からハイキング」の実践と観光資源活用の考察

- (1) 本校周辺の歴史に関する学習会
 - ・江戸時代後期の文人、菅江真澄の紀行文に描かれた本校周辺の様子
- (2) 「駅からハイキング」計画とエントリー
 - ・JR新青森駅を起点としたコース設定と「学生駅からハイキング」エントリー
 - ※コース名称：江戸時代の紀行家「菅江真澄」と三内丸山遺跡
- (3) 「駅からハイキング」準備
 - ・コースガイドのための解説台本による学習とガイドの練習
 - ・コースの下見
 - ・しおり作成と記念品の準備
- (4) 「駅からハイキング」実施
 - ・新青森駅→石神社→三内沢部八幡宮→三内丸山遺跡→三内霊園→新青森駅
- (5) 観光資源の活用に関する考察
 - ・三内丸山遺跡などを観光資源として活用する方法
 - ・今後の課題

「あおり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森東 高等学校
-----	----------

発表方法 参集型

発表テーマ

E-pro地域探究 ～青森の人口減少はなぜ～

発表要旨

青森県の人口減少率は全国2位と非常に高い。そこで「青森の人口減少率が全国的に見て高い理由はなぜかを突き止め、人口減少を食い止める解決策を考える」という研究課題を設定し検証した。人口減少率が高い県とその共通点について考察し、他県の実践例を踏まえた青森県の魅力と解決策について提案する。

発表内容：

- ・はじめに
- ・人口減少による問題点
- ・研究課題の設定と仮説
- ・人口減少率が高い県とその共通点の検証
- ・青森県の魅力と解決策の提案 ～マイナス面をプラス面に～
- ・おわりに

「あおり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立青森南高等学校
-----	-------------

発表方法 参集型

発表テーマ

南高のバトン ～先輩から引き継いだ平和学習の成果を後輩へ～

発表要旨

現3年生が昨年度2年生でおこなった青森空襲についての探究活動を引き継ぎ、自分たちなりに調べたり探究したりしたことをまとめた。さらに、青森市議会議員にプレゼンし、青森市新総合計画「元気都市あおり市民ビジョン」の後期基本計画の施策「平和意識の高揚」への提案をおこなった。市議会で取り上げてもらい、これからも青森市民の平和意識の高揚につながる活動を続けていきたい。

発表内容：

- ・探究のきっかけ。
- ・青森空襲について自分たちなりに調べたこと。
- ・青森県戦没者遺族会の方達との勉強会から学んだこと。
- ・他県では戦争体験をどのように伝承しているのか。
- ・青森市新総合計画第2章、第6節、第3項「平和意識の高揚」を達成するためには。
- ・高校生のわれわれができること。
- ・これからの活動について。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立 弘前 高等学校
-----	--------------

発表方法 参集型

発表テーマ

「あおもり創造学」弘前高校バージョン
～地域に根差したアイデンティティの形成～ 【ミニ課題研究をとおして】

発表要旨

弘前高校1学年では、「ミニ課題研究」で、SDGsに関する地域問題についての探究活動を行いました。持続可能な地域を作り上げる「あおもり創造学」に基づいた課題について研究することで、生徒それぞれが青森県に対する考えを深めることができました。また、考えたプロジェクト自体を実行することはできませんでしたが、班ごとに発表を行い、質問し合うことで、この探究活動がさらに有意義なものになりました。

発表内容：

私達、弘前高校では総合的な探究の時間で「ミニ課題研究」としてSDGsに関する地域問題の解決方法や魅力発信の方法を研究し、発表しました。課題の具体例として弘前市のゴミ問題や青森県全体として短命であるなどの問題があげられました。実際の発表の様子として減塩をテーマとした班の発表を紹介します。(動画)

このように私たちは、青森県を持続可能な地域にするという「あおもり創造学」の考えに基づき、ミニ課題研究を行いました。生徒の感想として「私達の知らなかった地域問題を知ることができた。」「取り組みを実行してみたい。」という声が聞かれました。各班で違った取り組みの考え方がされ、互いに学ぶことも多くあり、「あおもり」について生徒それぞれが考えるきっかけとなったように感じました。

多分ル
減塩 ねえん適塩 ~ Salt of life ~
青森県立弘前高等学校 18HR 8班 4* 樹家 林 森 梨 香 小山内 健人 飯 大 樹

1. 対象とする場と現状、問題点
対象地(青森県)
・短命県
・塩分のとりすぎ
・カップラーメン・インスタント食品消費量 全国1位
・家庭料理の味が濃い
・給食の味が濃い
・運動しない

2. 標榜をもって生活できる場の姿
SDGs ゴールNo.(7, 11)
減塩を心がけ短命県1位から
長寿県1位にする

3. 課題を解決する為のプロジェクト・アイデア *目的やターゲットを明確に、何を行うかの具体的に。
(スーパージョウ) 家庭料理から味を濃くして、他県(長寿県)と同じ濃さにする
①料理の動画を作る
②りんごミュージックに減塩レシピを作ってもらう(BGMとして流す)
③作った料理を動画投稿サイトで学校に発信してもらう
→みんなに見てもらうため

4. プロジェクトを広げるための協力先と連携のイメージ *連携先はいくつでも可
りんごミュージック
玉林
クラシレ

(減塩をテーマとした班のワークシート)

「あおり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立弘前中央	高等学校
-----	----------	------

発表方法 **参集型**

発表テーマ

Sakura Time 「弘南鉄道を盛り上げよう」

発表要旨

<p>弘前市周辺の主要な交通機関である「弘南鉄道」が、近年の利用者減少により廃線の危機にある。弘南線や大鰐線は、私たち高校生にとっても通学に欠かせない交通機関であるため、この危機的状況をなんとかしたい。そのために、何かできることはないか、高校生の視点から提案したい。</p>

発表内容：

1. 弘南鉄道
弘南鉄道の現在（営業成績等）
2. テーマ設定理由
3. プロジェクト
プロジェクトの意義
プロジェクトの内容
4. まとめ
今後について

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立七戸高等学校
-----	------------

発表方法 参集型

発表テーマ

自主研究Ⅰ～七戸町役場新庁舎建設に向けた高校生ワークショップ～

発表要旨

七戸町新庁舎建設にあたり、町の将来を担う若い世代の視点・発想で、新庁舎へ求められる機能やアイデアを出して欲しいという依頼を受けた。ワークショップに係るオリエンテーション、現地見学、発表会等とおして町の重要施策のひとつである庁舎建設事業に参画し、町政に対する興味や次代の担い手としての意識を高揚させるとともに、故郷に愛着を持たせることができた。※自主研究Ⅰの全35時間中7時間をこの時間にあてた

発表内容：

《取組1：11月10日》オリエンテーション

- 全体スケジュールについて
- ワークショップの目的について
- 新庁舎建設事業の概要について
- 現庁舎の現状と、建設候補地の状況について

《取組2：11月17日》現地見学

- 本庁舎、保健センター
- 七戸庁舎
- 新庁舎建設候補地

《取組3：11月24日》ワークショップ（各クラスで実施）

- 七高生が考える○○な新庁舎！
- 現庁舎はどうするの？

《取組4：12月1日》発表会

- 6グループ（各クラス2グループ×3クラス）が各8分で発表
- 講評（校長、町長）※七戸町教育長、財政課長等も出席

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	県立 三沢商業	高等学校
-----	---------	------

発表方法 参集型

発表テーマ

三沢の魅力大発信！～郷土愛の輪を広げよう～

発表要旨

青森県の最重要課題が人口減少克服であるため、プロジェクトに参加した。しかし、青森県や地元三沢市の地域課題について知らないため現状把握を行った後、ウェブサイトを作成し、地域の魅力と自分たちの活動の周知活動をした。多くの人に地域の魅力を知ってもらい、郷土愛を深めるために、地域との連携を強めながらウェブサイトの充実を図っていきたい。

1 テーマ設定理由と目標

【テーマ設定理由】

青森県の最重要課題が人口減少であるため、郷土愛を深め、県内定着を促すことが必要だと考えたから。

【目標】

Wixを用いてWebサイトを作成し、Webサイトの閲覧数150を目指す。
三沢市内の小中学生に三沢市の魅力を発信し、周知する活動をする。

2 仮説と研究計画

【仮説】

Webサイトで地域の魅力を発信し周知する活動をしていくことで、郷土のことや私たちの活動について知ってもらうことができ、これから将来のことを考えていく小中学生に対して魅力を発信して県内にとどまるようにすることができれば、人口減少を食い止めることができるのではないかと考えた。

3 研究活動と考察

(1) 月ごとの活動

- 4月 現状把握のための調査
- 5月 星野リゾート青森屋訪問、アイティコワーク①
- 6月 三沢市役所訪問、アイティコワーク②
- 7月 アイティコワーク③、青森中央学院大学訪問、県庁の方から出前トーク、みさわ七夕まつり
- 8月 カヤック体験、航空科学館、寺山修司記念館、みさわ祭り（競演）
- 9月 Wixの作成
- 10月 「いっとま」公開、文化祭、「みさわのみらい」、ハロウィンパーティーへの参加

(2) 青森県や三沢市の現状把握

【4月の活動】

青森県や三沢市の現状を把握するために調査であった。課題研究の授業の度に、青森県庁のHPやRESASなど、青森県の現状について調べた。そして、青森県では人口減少が著しいこと、地元を離れたという考えを持つ人が増加していること、県内就職率が低いことなどといった青森県の課題について具体的に知った。課題の改善や県の



【青森屋でのショーの様子 R4.5.21】

活性化に繋がると思われる案を各々検討し、話し合った。しかし、企業の誘致や新たな施設の建設などは高校生である私たちには難しいと思い、私たちができる範囲で県の活性化や人口減少の対策に繋がる活動とは一体何があるのか、班内で話し合いを重ねた。

【5月の活動】

星野リゾート青森屋に訪問した。津軽三味線、青森ねぶた祭り、弘前ねぶたまつり、八戸三社大祭の実演を交えたショーを見ることができた。どの祭りも圧倒される迫力だった。また、りんごジュースが出る蛇口などがあり、会場のどこを見ても青森の魅力を目や体で感じられ、その中で青森県の祭りは歴史がとても長く、さらに魅力を知ることができた。

また、学校にアイティワークの岡本様が来校し、特別講義でW i xを知った。これは、HTMLなどの専門知識を持っていなくてもW e bサイトを作成できるということやテンプレートが豊富であるという特徴があるため、高校生でも簡単にW e bサイトを作成することができる。



【りんごジュースが出る蛇口】

【6月の活動】

三沢市役所を訪問し、三沢市の課題や、それに対する政策について職員の方からお話していただいた。三沢市が、定住者を増やすために移住支援や結婚支援事業を行っていることを知った。しかし、政策を行っていることに対してあまり認知されていないのが現状で、それも課題の一つである。それらのことから情報発信が大切だと考えた。後日、アイティワークの方々からの特別講義があったため、W i xについて詳しく教えていただいた。

【7月の活動】

W i xを用いて三沢市の魅力を発信していくことに決定した。次の講義までに、W e bページの構成を考えておき、自分たちがどのような活動をしているのかということもW e bサイトに記載するようにとお話しいただいた。また、W e bサイトを作成する上で、「最終的な目標がW e bサイトを作成することではなく、人口流出を防いだり、減らしたりすることだということをお忘れしないようにしなければならない」という助言もいただいた。



【3年情報処理科 特別講義 R4.7.14 本校】

7月20日、市役所連携部会で青森市に訪れた。まず、あおり創造学プロジェクトの一環で青森中央学院大学に訪問し、姜教授から経営戦略とSDG sについて学んだ。姜教授は、韓国人の教授で、有名なアニメや企業を例に、マーケティングについてやSDG sが優秀な人材の確保にも繋がることを講義で楽しく学んだ。



【姜教授の講義 R4.7.20 青森中央学院大学にて】

その後、ワラッセにて、県庁の方から青森県の課題や現状について講義をしていただいた。内容として、近年、青森県の若者は県外に就職や進学をする人が増加しており、東北六県の各県内就職率は75.3%、全国平均は81.9%であるのに対し、青森県の県内就職率は58.7%と全国の中でも低い数値。この理由として、18~22歳の人たちは高校・大学の卒業を契機に県外に多く流出しているということがわかった。

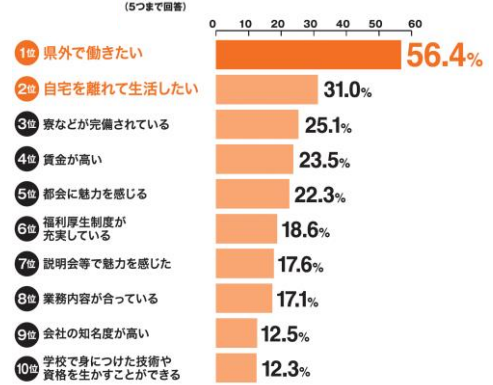


【青森県庁出前トーク R4.7.20 ワ・ラッセにて】

また、若者が青森県を出る理由として「県外で働きたい」「自宅を離れて生活したい」といった意見が最も多く挙げられ、“とにかく地元を離れたい”という気持ちが強いことが右の図から読み取れた。この理由として、賃金等の待遇面だけでなく、これまでの成長過程で育まれてきた県外志向があるということや、若者の進路選択には保護者の意向が強く影響しているという調査結果があるということがわかった。

今までは若者たちが県外を出たいという意見が多いことに焦点を当ててきたが、今回の県庁の方からのお話から、若者のみならず周りの環境も関係しているのではないかと新しい視点からの発見をすることができた。

県外就職を希望した理由は？



【資料：企画調整課「平成30年度高校生の就職に関する意識調査」】

【夏休みの活動】

七夕まつりに行った。小さい子から大人、外国人の姿も多く見られた。また、屋台だけでなく、バンドのライブ演奏やダンスのパフォーマンスなどもあり、街も人も活気あふれているように感じられた。右の写真のようなきらびやかな装飾がされた商店街はより賑わっていた。



【三沢七夕まつり R4. 7. 31】

カヤック体験、寺山修司記念館、三沢航空科学館、三沢まつりに行った。カヤック体験では、はじめは水上でバランスをとることがとても難しく、転覆してしまいそうになったが、後半はバランスをとることに慣れ、最後はゴール地点までみんなで競争するなどし、自然ととても近い距離で触れ合うことができた。前日に雨が降ると水かさが増すため、いつもとは少し違うカヤック体験が出来るというようなお話も伺うことができた。



【小川原湖でのカヤック体験 R4. 8. 4】

三沢航空科学館では、楽しみながら科学に触れることができた。三沢市大空ひろばの一角に位置しており、大空と飛翔をテーマとした航空と科学の博物館である。展示エリアに入っていくと航空、科学、宇宙のブースに分かれており、各ブースで子どもたちが楽しめるアトラクションが多くあった。



【航空科学館 R4. 8. 17】

寺山修司記念館は、三沢市歴史民俗資料館の隣に位置していて、森林に囲まれている。館内では、寺山修司の不思議な世界観が感じられ、様々な作品に触れられた。寺山修司は、三沢市出身で、小説や詩をはじめとした文学、演劇、映画など様々な分野で活躍していた人物である。館外には遊歩道があり、詩の書かれた道標があった。道中には、大きな本の形をした記念碑や犬の銅像もある。

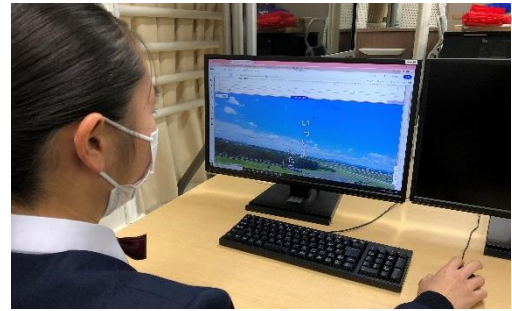


【寺山修司記念館 館内 R4. 8. 18】

(3) サイトの作成

【9月の活動】

8月に集めた三沢市の魅力の内容を記事に起こして情報発信するためのサイトの制作を行った。Webページを「食べる」「遊ぶ」「イベント」の3つに分けて、Webサイトを見た人が分かりやすいように工夫した。「食べる」に関しては、観光ICT部会1班と共同で作ることにした。



【Wixで作成している様子】

【10月の活動】

そしてついに10月3日に、Webサイトを公開した。Webサイトは「いっとま」と名付けた。「いっとま」とは、南部弁で「少しの間」という意味であり、三沢の魅力について知ってもらおうと共に、その少しの間だけでも楽しい時間を過ごしてほしいという思いから命名した。



【「いっとま」のホームページ】

(4) サイトの周知

10月8日と9日に本校で行われた文化祭でWebページの周知活動を行った。QRコードを配布したり、校内にポスターを貼ったりして、模擬店でWebサイトを閲覧することができるようにした。しかし、思うように閲覧数を増やすことができなかった。原因として、多くの人にQRコードを読み込んでもらうことができなかった。その反省点を生かして、月末にハロウィンパーティーに参加し、同じく周知活動を行った。文化祭では



【使用したポスター】

掲示や配布のみだったため、ハロウィンパーティーでは自分たちが参加者に積極的に声をかけるなどの工夫を施した。結果は、文化祭よりもアンケートの回答数は増加した。

4 成果と課題

成果として、Webサイトの作成・公開はできた。しかし、12月現在のサイト閲覧数は74回で、到達目標（Webサイトの閲覧数150を目指す）は達成することができなかった。原因は、文化祭で多くの人々が来校している中で周知活動を積極的にできなかったことや、周知方法が良くなかったことが挙げられた。また、ハロウィンパーティーでは、積極的に声をかけたことで、文化祭よりも閲覧数を増やすことはできたが、声掛けのタイミングがつかめない時もあった為、それがなければ閲覧数をもっと増やせたのではないかと考えた。

今後の課題としてWebサイト認知度向上のために、検索した際に上位にサイトが出てくるようにSEO対策をしていく。SEOとは、検索エンジン最適化とも言い、検索したときに上位に表示されるように調整することやその手法のことをいい、その多くは有料となる。現段階では、無料であり、QRコードを読み取るか、ドメインを打ち込んで検索しないとサイトを見ることができない。サイトへのアクセス方法を増やし、より多くの人に魅力を知ってもらうためには、そこも課題である。地域の魅力の発信だけでなく、地元企業と連携するなど高校生に県内の企業について知る機会を増やしていく。人口減少の対策は魅力の発信だけではないため市役所や大学、地域の方々との連携を強め、他の視点からアプローチしていくことで更なる効果が見込めるのではないかと考える。

1 テーマ設定理由と目標

【テーマ設定理由】

青森県の最重要課題が人口減少であるため、郷土愛を深め、県内定着を促すことが必要だと考えたから。

【目標】

W i xを用いてW e bサイトを作成し、W e bサイトの閲覧数150を目指す。
三沢市内の小中学生に三沢市の魅力を発信し、周知する活動をする。

2 仮説と研究計画

【仮説】

W e bサイトで地域の魅力を発信し周知する活動をしていくことで、郷土のことや私たちの活動について知ってもらえることができ、これから将来のことを考えていく小中学生に対して魅力を発信して県内にとどまるようにすることができれば、人口減少を食い止めることができるのではないかと考えた。

3 研究活動と考察

(1) 月ごとの活動

- 4月 現状把握のための調査
- 5月 星野リゾート青森屋訪問、アイティコワーク①
- 6月 三沢市役所訪問、アイティコワーク②
- 7月 アイティコワーク③、青森中央学院大学訪問、県庁の方から出前トーク、みさわ七夕まつり
- 8月 カヤック体験、航空科学館、寺山修司記念館、みさわ祭り（競演）
- 9月 W i xの作成
- 10月 「いっとま」公開、文化祭、「みさわのみらい」、ハロウィンパーティーへの参加

(2) 青森県や三沢市の現状把握

【4月の活動】

青森県や三沢市の現状を把握するために調査であった。課題研究の授業の度に、青森県庁のHPやRESASなど、青森県の現状について調べた。そして、青森県では人口減少が著しいこと、地元を離れたという考えを持つ人が増加していること、県内就職率が低いことなどといった青森県の課題について具体的に知った。課題の改善や県の



【青森屋でのショーの様子 R4.5.21】

活性化に繋がると思われる案を各々検討し、話し合った。しかし、企業の誘致や新たな施設の建設などは高校生である私たちには難しいと思い、私たちができる範囲で県の活性化や人口減少の対策に繋がる活動とは一体何があるのか、班内で話し合いを重ねた。

【5月の活動】

星野リゾート青森屋に訪問した。津軽三味線、青森ねぶた祭り、弘前ねぶたまつり、八戸三社大祭の実演を交えたショーを見ることができた。どの祭りも圧倒される迫力だった。また、りんごジュースが出る蛇口などがあり、会場のどこを見ても青森の魅力を目や体で感じられ、その中で青森県の祭りは歴史がとても長く、さらに魅力を知ることができた。

また、学校にアイティワークの岡本様が来校し、特別講義でW i xを知った。これは、HTMLなどの専門知識を持っていなくてもW e bサイトを作成できるということやテンプレートが豊富であるという特徴があるため、高校生でも簡単にW e bサイトを作成することができる。



【りんごジュースが出る蛇口】

【6月の活動】

三沢市役所を訪問し、三沢市の課題や、それに対する政策について職員の方からお話していただいた。三沢市が、定住者を増やすために移住支援や結婚支援事業を行っていることを知った。しかし、政策を行っていることに対してあまり認知されていないのが現状で、それも課題の一つである。それらのことから情報発信が大切だと考えた。後日、アイティワークの方々からの特別講義があったため、W i xについて詳しく教えていただいた。

【7月の活動】

W i xを用いて三沢市の魅力を発信していくことに決定した。次の講義までに、W e bページの構成を考えておき、自分たちがどのような活動をしているのかということもW e bサイトに記載するようとお話いただいた。また、W e bサイトを作成する上で、「最終的な目標がW e bサイトを作成することではなく、人口流出を防いだり、減らしたりすることだということをお話いただいた。また、W e bサイトを作成する上で、「最終的な目標がW e bサイトを作成することではなく、人口流出を防いだり、減らしたりすることだということをお話いただいた。また、W e bサイトを作成する上で、「最終的な目標がW e bサイトを作成することではなく、人口流出を防いだり、減らしたりすることだということをお話いただいた。」という助言もいただいた。



【3年情報処理科 特別講義 R4.7.14 本校】

7月20日、市役所連携部会で青森市に訪れた。まず、あおり創造学プロジェクトの一環で青森中央学院大学に訪問し、姜教授から経営戦略とSDG sについて学んだ。姜教授は、韓国人の教授で、有名なアニメや企業を例に、マーケティングについてやSDG sが優秀な人材の確保にも繋がることを講義で楽しく学んだ。



【姜教授の講義 R4.7.20 青森中央学院大学にて】

その後、ワラッセにて、県庁の方から青森県の課題や現状について講義をしていただいた。内容として、近年、青森県の若者は県外に就職や進学をする人が増加しており、東北六県の各県内就職率は75.3%、全国平均は81.9%であるのに対し、青森県の県内就職率は58.7%と全国の中でも低い数値。この理由として、18~22歳の人たちは高校・大学の卒業を契機に県外に多く流出しているということがわかった。

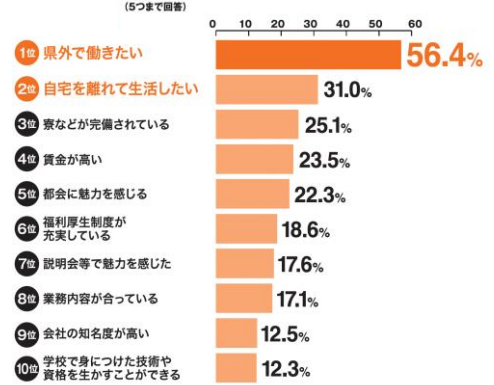


【青森県庁出前トーク R4.7.20 ワ・ラッセにて】

また、若者が青森県を出る理由として「県外で働きたい」「自宅を離れて生活したい」といった意見が最も多く挙げられ、“とにかく地元を離れたい”という気持ちが強いことが右の図から読み取れた。この理由として、賃金等の待遇面だけでなく、これまでの成長過程で育まれてきた県外志向があるということや、若者の進路選択には保護者の意向が強く影響しているという調査結果があるということがわかった。

今までは若者たちが県外を出たいという意見が多いことに焦点を当ててきたが、今回の県庁の方からのお話から、若者のみならず周りの環境も関係しているのではないかと、という新しい視点からの発見をすることができた。

県外就職を希望した理由は？



【資料：企画調整課「平成30年度高校生の就職に関する意識調査」】

【夏休みの活動】

七夕まつりに行った。小さい子から大人、外国人の姿も多く見られた。また、屋台だけでなく、バンドのライブ演奏やダンスのパフォーマンスなどもあり、街も人も活気あふれているように感じられた。右の写真のようなきらびやかな装飾がされた商店街はより賑わっていた。



【三沢七夕まつり R4. 7. 31】

カヤック体験、寺山修司記念館、三沢航空科学館、三沢まつりに行った。カヤック体験では、はじめは水上でバランスをとることがとても難しく、転覆してしまいそうになったが、後半はバランスをとることに慣れ、最後はゴール地点までみんなで競争するなどし、自然ととても近い距離で触れ合うことができた。前日に雨が降ると水かさが増すため、いつもとは少し違うカヤック体験が出来るというようなお話も伺うことができた。



【小川原湖でのカヤック体験 R4. 8. 4】

三沢航空科学館では、楽しみながら科学に触れることができた。三沢市大空ひろばの一角に位置しており、大空と飛翔をテーマとした航空と科学の博物館である。展示エリアに入っていくと航空、科学、宇宙のブースに分かれており、各ブースで子どもたちが楽しめるアトラクションが多くあった。



【航空科学館 R4. 8. 17】

寺山修司記念館は、三沢市歴史民俗資料館の隣に位置していて、森林に囲まれている。館内では、寺山修司の不思議な世界観が感じられ、様々な作品に触れられた。寺山修司は、三沢市出身で、小説や詩をはじめとした文学、演劇、映画など様々な分野で活躍していた人物である。館外には遊歩道があり、詩の書かれた道標があった。道中には、大きな本の形をした記念碑や犬の銅像もある。

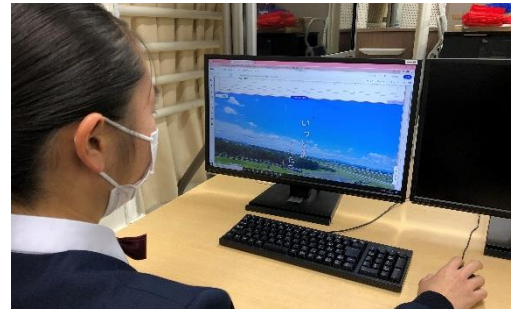


【寺山修司記念館 館内 R4. 8. 18】

(3) サイトの作成

【9月の活動】

8月に集めた三沢市の魅力の内容を記事に起こして情報発信するためのサイトの制作を行った。Webページを「食べる」「遊ぶ」「イベント」の3つに分けて、Webサイトを見た人が分かりやすいように工夫した。「食べる」に関しては、観光ICT部会1班と共同で作ることにした。



【Wixで作成している様子】

【10月の活動】

そしてついに10月3日に、Webサイトを公開した。Webサイトは「いっとま」と名付けた。「いっとま」とは、南部弁で「少しの間」という意味であり、三沢の魅力について知ってもらおうと共に、その少しの間だけでも楽しい時間を過ごしてほしいという思いから命名した。



【「いっとま」のホームページ】

(4) サイトの周知

10月8日と9日に本校で行われた文化祭でWebページの周知活動を行った。QRコードを配布したり、校内にポスターを貼ったりして、模擬店でWebサイトを閲覧することができるようにした。しかし、思うように閲覧数を増やすことができなかった。原因として、多くの人にQRコードを読み込んでもらうことができなかった。その反省点を生かして、月末にハロウィンパーティーに参加し、同じく周知活動を行った。文化祭では



【使用したポスター】

掲示や配布のみだったため、ハロウィンパーティーでは自分たちが参加者に積極的に声をかけるなどの工夫を施した。結果は、文化祭よりもアンケートの回答数は増加した。

4 成果と課題

成果として、Webサイトの作成・公開はできた。しかし、12月現在のサイト閲覧数は74回で、到達目標（Webサイトの閲覧数150を目指す）は達成することができなかった。原因は、文化祭で多くの人々が来校している中で周知活動を積極的にできなかったことや、周知方法が良くなかったことが挙げられた。また、ハロウィンパーティーでは、積極的に声をかけたことで、文化祭よりも閲覧数を増やすことはできたが、声掛けのタイミングがつかめない時もあった為、それがなければ閲覧数をもっと増やせたのではないかと考えた。

今後の課題としてWebサイト認知度向上のために、検索した際に上位にサイトが出てくるようにSEO対策をしていく。SEOとは、検索エンジン最適化とも言い、検索したときに上位に表示されるように調整することやその手法のことをいい、その多くは有料となる。現段階では、無料であり、QRコードを読み取るか、ドメインを打ち込んで検索しないとサイトを見ることができない。サイトへのアクセス方法を増やし、より多くの人に魅力を知ってもらうためには、そこも課題である。地域の魅力の発信だけでなく、地元企業と連携するなど高校生に県内の企業について知る機会を増やしていく。人口減少の対策は魅力の発信だけではないため市役所や大学、地域の方々との連携を強め、他の視点からアプローチしていくことで更なる効果が見込めるのではないかと考える。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立大間高等学校
-----	------------

発表方法 参集型

発表テーマ

下北の底チカラ発見隊 ～北通り3町村編～
大間町・風間浦村・佐井村と連携しての活動

発表要旨

地域の現状を知るために、電源開発株式会社さんや一般社団法人しもきたTABIあしすとさん等による講演会を開催した。講演を聞いた上で、分野ごとに一人一課題を設定した。インターネットや文献による情報収集やアンケートを実施して、課題解決のために取り組んだ。探究活動の成果を、風間浦村教育長や大学教授に発表し助言をいただくと、探究活動を修正する必要もあると感じた。

発表内容：

- (1) 地域の現状を知る (2) 地域の課題解決のために
 - ・エネルギー講演会 電源開発株式会社 (J-POWER)
 - ・地域の活性化講演会 大間町 普賢院
 - ・観光と魅力発信講演会 一般社団法人しもきた TABI あしすと
 - ・医療と健康講演会 元大間病院看護師 JAPANHEART 経験者
- (3) 課題解決に向けた活動
 - ・インターネットによる情報
 - ・文献調査
 - ・アンケートの実施
 - ・有識者へのインタビュー (佐井村定期観光・風間浦村教育委員会)
- (4) 成果の報告・情報発信
 - ・大間高校内での探究活動報告会
 - ・風間浦村教育委員会教育長への探究成果発表
 - ・青森大学むつキャンパス特任教授への探究成果発表
- (5) 振り返り・まとめ
 - ・今年一年間の活動を振り返って

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立三沢高等学校
-----	------------

発表方法 参集型

発表テーマ

インバウンドで見る青森県・三沢市のこれから
～Let's Shine MISAWA～

発表要旨

インバウンドで三沢市を盛り上げる、という趣旨の下、活動した。コロナ渦以前の2019年の訪日外国人の割合や、それに対してどういう取り組みをしてきたか調査した。コロナを否定的に捉えることなく、アンケートを取ることによって、観光業界の創意工夫を理解することができた。日頃、身近に感じている青森県の観光地についてもより深い考察をし、発表したい。

発表内容：

- ・インバウンド効果について説明をする。
- ・青森県に来る外国人観光客の割合を紹介する。
- ・青森県のコンテンツを海外に発信するための政策の調査・報告を行う。
- ・三沢高校の生徒へのアンケートを発表する。
- ・三沢市にある宿泊施設（星野リゾート青森屋・ルートイン三沢）へのインタビューを発表する。
- ・青森県の人気観光地を発表する。
- ・最後に三沢市の魅力を発信するための自らの考えを発表する。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立青森高等学校
-----	------------

発表方法 参集型

発表テーマ

外国人の日本語学習を助ける ～ 労働人口減少のなかでの外国人との共生を目指して ～

発表要旨

人口減少に伴い、労働力の激減が見込まれる青森県には労働力としての外国人を多く受け入れ、共生していく必要がある。せっかく来てもらっても生活や労働環境が整っていないと、予定よりも早く帰国したり、悪い印象を持って帰国することもある。私たちは職場でよく使うあいさつや敬語に注目し、日本語教室を開催した。これまでの時点で、どんな教材が適しているか、最適な実施方法は何かなどについての研究結果を発表する。（使用言語：英語）

発表内容：

課題：青森県在住の ALT、技能実習生、コンビニエンスストアのアルバイト定員に聞き取り調査を行い、地元のコミュニティになじめない、日本語の学習が難しいなどの意見を得た。特に、来日前に学んだ日本語があまり実用的でなく、こちらについてから現場で学ぶしかない状況が見えてきた。

仮説：職場で使う日本語を学ぶ機会があれば、不安や不便が少なくなるだろう。

検証：オカムラ食品の技能実習生を中心に、数回体験型の日本語教室を開催した。教室開始前の日本語の理解度と終了後の理解度を小テスト形式で測り、アンケート調査をもとに最適な日本語教室の教材やあり方を検証した。

結果：教室実施後の方が日本語の理解が深まった。アンケートより、「寸劇のほかに絵などを取り入れた方がよい」、「ひらがなの表記がもっと必要である」、「話す速度はもっとゆっくりな方がよい」、「丁寧語・敬語のレベルの説明と使用場面にも触れた方がよい」ことがわかった。

考察：不安はある程度なくなった。ただし、内容を充実させるには、受講者のレベルとニーズを事前にもっと調べる必要がある。

展望：対象と教材を変えて、さらに充実した日本語学習の教材と教室の実施方式を検討する。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立五所川原高等学校
-----	--------------

発表方法 オンライン

発表テーマ

食料廃棄を救うヒーローになろう！ ～食料廃棄物のWHY・HOW・WHERE～

発表要旨

世界では毎年13億トン、日本でも毎年600万トン以上の食料が廃棄されており、生ごみの処理量も増えている。そこで、食材の普段捨てている部分を肥料にしたり、可食部として料理したりすることで生ごみの排出を削減することができる考えた。実際に卵の殻を肥料にし、野菜の皮やワタを料理して美味しく食べられるかを検証した。

発表内容

食料廃棄を救うヒーローになろう！

長内由佳、仙庭歩佳、齊藤広惺、原田奈桜子

1. 課題

世界では毎年13億トン、日本でも毎年600万トン以上の食品が廃棄されており、毎日1人あたり茶碗1杯のご飯を捨てているのと同じ計算になる。それに伴い生ごみの排出も増えており、CO2の排出や燃料消費といった観点から、ごみ処理が世界的に問題になっている。

2. 探究のきっかけ

どうして自分たちの探究活動をしようと思ったか、きっかけについて紹介する。

3. 仮説

①生ごみを肥料として使うことで生ごみの排出を削減できるのではないか。

②生ごみを料理に使うことで生ごみの排出を削減できるのではないか。

4. 検証方法

①卵の殻を土に混ぜ込んで肥料として使い、野菜を栽培する。

②普段捨ててしまう野菜の皮などを料理に使う。

5. 検証結果

①卵の殻を混ぜた土でピーマンを育てたが、問題なく育ち、一般的な肥料を使って育てたのと遜色ない大きさになった。

②捨てる部分を使って「だし」「スープカレー」を作ったが、おいしく作ることができ、試食してもらった先生方からも好評だった。

以上の実験で実際に削減できた生ごみの量を測定し、続けたときにどれくらい生ごみの削減になるかを考察し、試算した値を紹介する。

6. 今後の展望

自分たちの探究の反省点や改善点を考察する。また、自分たちの探究を広めていくために作成しているサイトについて紹介する。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	八戸工業高等学校
-----	----------

発表方法 オンライン

発表テーマ

「あおもり創造学」地元ファンづくりプロジェクト
～地元企業・大学との交流活動報告～

発表要旨

現在、青森県は人口流出率で47都道府県中全国最多、八戸市は転出超過数で全国7921市中8番目の多さである。特に若年層の転出が多い。この地域課題を解決するために、本校全学科（機械科、土木科、電気科、建築科、材料技術科、電子科）の生徒を対象に、高い専門性を有した県内企業や技術者と交流活動を実施することで、地域への愛着や誇りを醸成するとともに、地域産業の担い手となるための技術や技能の継承に取り組んだ。

発表内容：

- 1 各学科における県内企業や技術者と交流活動報告
 - (1) 機械科 技能検定3級機械保全作業実技講習 八戸工業大学 黒滝 稔 氏
 - (2) 土木科 測量出前講座 一般社団法人 青森県測量設計業協会 三八支部
 - (3) 電気科 高校生未来デザインミーティング 八戸電気工事業協同組合青年部
 - (4) 建築科 職業観育成講話 フクシアンドフクシ建築事務所 福士 譲 氏
 - (5) 材料技術科 住友電工電子ワイヤー(株)八戸事業所見学 (コロナ禍による延期)
 - (6) 電子科 旭光通信システム(株) 桜総業(株)見学 (コロナ禍による延期)
- 2 アンケート結果
- 3 来年度へ向けて

「あおり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立八戸中央高等学校（定）
-----	-----------------

発表方法 オンライン

発表テーマ

地域連携と防災意識の向上 ～津波から命を守る～

発表要旨

本校が太平洋及び新井田川に近くに位置し、ハザードマップでは津波浸水区域となっていることから、防災・減災に向けた取組として、地域住民と合同防災訓練を実施した。津波による被害についてよく知らないことに気付き、課題などを見つけながら防災に関する意識を向上させた。津波による被害から命を守ることの大切さを世界に訴えるため、津波サミットへ参加した生徒が意見交換を行った。

発表内容：

- ・地域住民との合同防災訓練
- ・津波による被害を知る
- ・津波サミットでの意見発表

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	青森県立八戸高等学校
-----	------------

発表方法 オンライン

発表テーマ

八戸発見学～地元の「強み」を見てみよう～
「私たちの提案 八戸を 南部を 青森をPR」

発表要旨

八戸高校の1年生では、「八戸発見学」を通じて八戸市及び周辺地域の自然・産業・文化の歴史や現況を学んだ。そして、その学びや体験を通じて得た知見をもとに、地元企業や文化財のさらなる活用方法やイベントを考案した。若者の郷土愛を育み、県外在住者の来県を誘うきっかけとして提案を行う。

発表内容：県南地域の企業・文化財とコラボした企画をパネルで提案

1 八戸を再び漁業の街に！

魚・漁業に興味をもってもらうため、県内外でイベントを実施

- ① 八戸前沖サバを用いたオリジナルメニューの公募
- ② イカずきんズ ファミリーの全国イベントへの出張参加
- ③ 大都市圏でのゲリラPR（サバ・イカ販売促進）

2 「おいしいもの」ツアー in 五戸

「五戸のおんこちゃん」の歌詞に出てくる名物を地元の景色を楽しみながら食す旅

- ① 「花っこより馬肉汁だなす」
- ② 「たまげだ いいあじっこ」倉石牛&シャモロック
- ③ 「ほっぺたおちだら どやすべ」紅玉のアップルパイ他

3 子ども達集まれ！

企業や名勝等において未就学児・小学生対象のイベントを実施

- ① 造船会社の見学と船の模型作り
- ② 神社（櫛引八幡宮）での流鏝馬体験、ちびっこ相撲大会

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨

学校名	名久井農業高等学校
-----	-----------

発表方法 オンライン

発表テーマ

エコロジー学園なのう～将来を見据えた攻めの環境対策～

発表要旨

企業から太陽光パネルには耐用年数（約 30 年）があり、耐用年数を過ぎた太陽光パネルの大量廃棄時代の到来を告げられた。対策として、現在、企業でも廃棄された太陽光パネルから発生するガラス：「スーパーソル」の有効活用に取り組んでおり、農業分野での研究について協力依頼を受け、本研究に至った。「スーパーソル」は、多孔質であることや軽量で耐久性があるなど、農業や環境分野へ嬉しい性質が盛り沢山である。多方面への活用が期待できることから、既に同研究関連事業として申請済みのドリカム人づくり推進事業と抱き合わせながら、たくさんの実験に取り組んだ。全く新しい発想だけでなく、類似する資材との比較という視点を大切にしながら、農業高校生の視点で農業や環境への貢献を目指した。

「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

成果発表会発表要旨

学校名	野辺地高等学校
-----	---------

発表方法 オンライン

発表テーマ

誰も知らない、秘密の場所へ

発表要旨

地元の課題である少子高齢化、人口減少を解決するため、若者をターゲットに地元の魅力を発信することを考えた。そこで、県内外に知られていない野辺地町の穴場を探し、SNSに投稿した。また野辺地町紹介パンフレットを作成し全世代に野辺地町を知ってもらえるようにした。

発表内容：

若者（10～30代）をターゲットに野辺地町の魅力を発信する。野辺地町は少子高齢化、人口減少が課題だと考えているので未来を担う若者をターゲットとする。また、知られていない野辺地町の穴場的な部分を知ってもらい観光客を増やす。食・自然・歴史をまとめたパンフレットを作成し、野辺地町に訪れる人に手に取ってもらう。パンフレットは持ち帰りができるので家族などにも見てもらうことができる。さらに若者に主流のSNSであるInstagramに野辺地町の魅力を発信するためのアカウントを作成。またハッシュタグを工夫して目につきやすいようにする。例えば#青森県#観光スポット#旅行などをつける。